**勝源寺**

勝源寺は、大森代官所がかつてあった場所から約100mほど西に行ったところにある丘の麓にある浄土（浄土）宗の寺院です。この場所は、この寺が江戸時代（1603–1867）に石見銀山の地方行政と密接な関係があったことを示しています。

勝源寺は、1600年代初頭、徳川幕府（中央政府）が石見銀山の支配権を握った頃に創建されました。

将軍が銀山を管理するための代官を任命した後、大森の町は、代官所を中心として発展し、商人や武士が代官所の商品やサービスの需要を満たすために大森へと引っ越してきました。

長年にわたり、多くの代官が勝源寺に参拝することを選択し、そのうちの6人は、代官所のおかげで事業の多くが繁栄した大森の最も裕福な商家の多数の家族とともに、この境内に埋葬されています。

この寺には、地元の職人による精巧な彫刻が施された1772年建造の高さ10メートルの堂々とした山門から入ります。これらの彫刻の中には、1対の獅子（獅子）、龍、そしてその裏側には双頭の象が含まれています。右手の門をくぐってすぐのところに、石屋根が付いた石見銀山の2代目奉行、竹村道清（1561–1635）の墓石が建っています。この寺院の本堂は、1867年に建てられたもので、その中には阿弥陀如来像が色彩豊かに彩られた天井の下に安置されています。本堂の裏の丘をさらに登ると、東照宮があり、これにより勝源寺と代官所、そしてひいては徳川幕府とのつながりを改めて示しています。この神社には、幕府の創立者、徳川家康（1543–1616）が神道の神として祀られており、ここには家康の後継者11人の位牌も祀られています。